特集
アジア選手権

はじめてのアジア選手権

小野盛光

アジア選手権大会 2008年7月25-29日 韓国・ソウル市近郊

連日猛暑の日本からソウルにきてみれば、雨に煙っていた。

2008年7月25-30日
アジアオリエンテーリング選手権大会
アジア太平洋オリエンテーリング大会
韓国・ソウル市近郊

イベントセンター

都心の韓国観光公社の一角に設けられ、ゼッケン、プログラム、参加賞のザックを受け取る。プログラムは英語、韓国語のほかにかなり圧縮された形であるが日本語のページも設けられサービスが行き届いていた。

参加賞のザックはしっかりしたつくりのもので、かなり価値のあるものだ。また、個人ごとにゼッケンが受け取れる方式は同じチーム内でも行動が異なるケースがあるので、都合がよい。

ただし、イベントセンターの場所表示がフラッグのみであり、オリエンティアには一目瞭然だが、関係者以外は全くアジア選手権という大きなイベントのセンターであることはわからない。一般社会へのアピールという点では残念である。市民と会話した参加者の話を聞くと「オリエンテーリング」は日本より普及していないようだ。

モデル

モデルはミョンドン南の南山にあるソウルユースホステル付近に設けられた。山がちのミドル・ロング向けと隣接する公園に設けられたスプリント向け。各5個のコントロールが設置されていた。ミドル・ロング向けでは道や尾根筋から距離がある場所に置かれているのが今後のレースに向けて気になる。走っていないのに、湿気の高いせいもあり、汗だくになる。

スプリント

88年に開かれたソウルオリンピック会場の一部を使って開催された。地下鉄でソウル中心街から約1時間。駅から広く配置された巨大な各競技場の間を通って本日の競技会場へ。適度な起伏があり、樹木下もきれいな草地であり快適なテレインである。13時競技開始のため、到着した11時ごろはまだ準備の真っ最中。あいにくの雨模様のため、参加者用テントはすぐに超満員になる。スタートは10分遅れとなる。あとで聞いたところではスタートフラッグがなくなっていたらしく、再度設置のための遅れとのこと。まずはグループからスタート開始。

スタート手順は約5分前に呼び出しがあり、枠に入り、Eカードのバックアップラベルと位置説明を取る。3分前に番号をチェックされ、進む。1分前に地図をとり、ユニット脇に進む。Eカードの事前確認はなく、ここで初めて作動が確認される。作動しなかったときの対応が心配。

多くが開けた起伏のある中に林もある走りやすいテレインであるが、田んぼも3箇所あり、私有地が残っているのかと思われる場所もある。

成績も続々と発表される。一般クラスでは若年、中年ともに香港・中国が強く、高齢者では日本の活躍が目立つ。地元韓国は残念ながらあまり各クラスとも上位には見られなかった。

初のアジア選手権では日本女子の勝負に挑む意欲がランニングシャツスタイルに現れていた。女子は番場選手、男子は高橋選手が優勝。加納選手、寺垣内選手が2位に入った。

日本女子の気合を示すスプリントのウェア

スプリント男子結果

1	高橋善徳	0:18:08	日本
2	Myshakin Sergey	0:18:23	RUS
3	Voloshko Alex.	0:19:05	RUS
4	XueKe-Zhan	0:19:12	CHN
5	寺垣内航	0:20:02	日本
6	LamSam-Choi	0:21:04	CHG

（APOCとしての成績）

スプリント女子結果

1	番場洋子	0:16:26	日本
2	Casanova Susanne	0:17:42	AUS
3	Gornaya Mariya	0:19:52	KAZ
4	加納尚子	0:20:19	日本
5	WenSheng-Huan	0:20:58	CHN
6	千葉光江	0:21:51	日本

（APOCとしての成績）

開会式

表彰式は実質行なわれず、いすのない状態は競技に参加したものにとってはつらいものがあったが、伝統的な踊りなどが行なわれ、参加者を楽しませた。

ロング

まだ曇り空の中、ソウル市街地から南へ地下鉄で1時間の修理山を競技場所にして開催された。学校が競技センターになっており、参加者の更衣場所は校舎の1階部分（スプリント0マップ図式で言えば通過可能な建物）とテントでやや手狭であった。スタートは会場から20分で道の終わり部分。スタート開始時刻が20分遅れ。コントロールチェックで不適切な場所があったとのこと。

薮に囲まれたわかりにくい場所のコントロールもあり、慎重なコース取りが必要なコースだった。

今日も番場・高橋の両選手が優勝し、他選手もスプリントと同様な好成績を挙げた。

ロング男子結果

1	高橋善徳	1:40:50	日本
2	Myshakin Sergey	1:49:42	RUS
3	寺垣内航	1:53:00	日本
4	Voloshko Alex.	1:57:17	RUS
5	Cao Bin	2:01:44	CHN
6	HuiSiu-Tung	2:02:16	CHG

（APOCとしての成績）

ロング女子結果

1	番場洋子	1:19:02	日本
2	Casanova Susanne	1:19:48	AUS
3	加納尚子	1:23:44	日本
4	WenSheng-Huan	1:32:43	CHN
5	小暮円香	1:33:48	日本
6	Chuprikova Natalya	1:42:11	KAZ

（APOCとしての成績）

ミドル

ソウル北部のドボンザン（道峰山）で開催された。駅からは市街地を通って会場の小学校へ行く。小学校から一般クラスのスタートへのルートも市街地で、山はどこにあるのかとおもう。

アジア選手権はバスでスタートへ。

大通りから民家の間をちょっと抜けるとかえでや松の林と花崗岩の沢を流れる清らかな川に出合う。コースは短いレッグを多用しており、複雑に交差

する小径と細かい地形を読んで慎重なオリエンテーリングが要求される。韓国式の墓も多く見られ、アタックの手がかりとして役立った。

女子はミドルも番場が優勝した。しかし男子はこの日正式な成績が確定せず、表彰式は延期された。昨日もそうであったが個人ラップ表はゴール後受け取るまで10～20分を要し、まだEカードを使った運営に不慣れな点がみられた。

今日は雨が降る様子は全く見られず、暑さにダウン気味であった。

ミドル男子結果

1	高橋善徳	0:35:29	日本
2	Myshakin Sergey	0:39:03	RUS
3	寺垣内航	0:42:31	日本
4	Voloshko Alex.	0:43:15	RUS
5	茂木堯彦	0:43:29	日本
6	櫻本信一郎	0:44:20	日本

（APOC としての成績）

ミドル女子結果

1	番場洋子	0:29:41	日本
2	Casanova Susanne	0:33:18	AUS
3	WenSheng-Huan	0:39:48	CHN
4	Gavrilova Tatyana	0:40:33	KAZ
5	小暮円香	0:41:53	日本
6	Khassanova Riana	0:47:09	KAZ

（APOC としての成績）

リレー

また、曇り空。会場に着いたとたんにポツリ、ポツリと来た。スタート開始ごろには本格的に降ってきて、1走から2走に移るころが最も激しかった。

日本は男女とも 2 チーム出場。女子は番場・加納の 2 人がすでに帰国し、いわば飛車角を欠き、ベテランの宮本知江子さんを助っ人に加えてチーム編成。

ビジュアルまで日本 2 チームがリードしたものの、タッチはカザフスタンに先行されるという苦しい出だしだったが、安定したタイムで後続が挽回し、みごとな1，2フィニッシュとなった。

一方男子は、昨日までと打って変わって、安定性に欠き、中心選手のタイムが今一歩伸びず、タイムをそろえた中国に今大会初の1敗を喫した。

アジア選手権リレー女子で優勝した日本と2位カザフスタン、3位中国

リレー男子結果

1	中国	2:49:25
2	日本1	2:49:38
	（寺垣内航-高橋善徳-茂木堯彦）	
3	ロシア	3:05:10
4	香港	3:11:20
5	日本2	3:11:22
	（櫻本信一郎-田久保豊-尾崎高志）	
6	カザフスタン	3:26:48

リレー女子結果

1	日本1	2:27:40
	（小暮円香-千葉光江-宮本知江子）	
2	日本2	2:37:13
	（阿部ゆかり-笠原綾-臼倉由起）	
3	カザフスタン	2:41:25
4	中国	2:46:54
5	台湾	4:04:33

ジュニアについて

APOC においても日本からジュニアの参加はあったものの香港・中国の若手が表彰台にあがることが多かった。ジュニア世界選手権ではなかなか結果がだせない日本全体の実力状況においてはアジアでのレースを活用することが必要ではないかと考える。大学生レベルではアジア選手権ではいいレースができることが実証された。20 歳以下のクラスにおいても全日本大会などで優秀な成績を修めた競技者には参加料の援助などで参加を促することは検討してもいいと考える。また、時間的な流れがうまくいくなら、この大会で優秀な成績を上げたものはジュニア世界選手権選考にあたっては、優先ポイントを与えてもいいのではと考える。

とりわけ日本国内の大会で競争相手が少なく、刺激不足の小中学生の年代においては、香港、中国の子どもと一緒に競技できたことは、大きな収穫であったと思われる。

独占香港
日本の高校生以下のオリエンティアの参加が望まれるジュニアクラス

リレーについて

一般参加者のチーム編成は今回も大変苦労した。申込団体のグループや家族など小団体間で調整するのは色々な人に伺う必要がある。なんとかしたい。

アジア選手権について

IOF の公式な大会であるアジア選手権を従来のアジア太平洋オリエンテーリング大会に加えたことにより、格段と主催者の負担は増加した。監督会議、レース前日の選手の登録・受付や IOF イベントアドバイザーによるより厳密なチェックは WOC と同じ実施事項である。

また、前回の香港での大会に続き、アジア地域以外の参加者が非常に少なかった。オセアニア、アメリカ大陸といった IOF の地域振興の考えと整合をとり、今後どう対応するかも大きな課題である。

次回は日本

次回は日本で開催することが、この大会中に行われた会議で決定した。アジア、環太平洋の国々の方から今回以上参加を期待したい。また WOC の経験を生かし、JOA を中心としたしっかりとした運営体制で準備が進められるよう希望する。

最後に、韓国においては運営者も不足気味と思われるが、大変負荷の高いことを受託し、すばらしい大会を提供していただいた韓国の協会に敬意を表します。また、日本から重要な役割を担って派遣された方にも感謝します。

（小野盛光）

IOF キャメロン副会長から韓国協会ﾞ会長へ謝意